

令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。



今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

- (1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。
- (2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に生徒の伸びを見ることができる調査となっております。平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。
- (3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。
- (4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>

<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年4月17日(木)

4 調査の内容

(国語、数学、英語) 教科に関する調査	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校調査は、国語、数学、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 <ul style="list-style-type: none"> ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。 ・理科については1人1台端末を使って問題配付され、解答をする。 	
	【中学校 国語・数学・理科 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

中学校

＜教科に関する調査＞ は全国平均正答率を上回ったもの



国語									
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に関する事項	2	48.5	48.5	48.1	話すこと・聞くこと	4	55.2	54.3	53.2
情報の扱い方に関する事項	0				書くこと	5	55.1	53.7	52.8
我が国の言語文化に関する事項	0				読むこと	3	64.6	63.6	62.3

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	56.5	45.0	43.5
図形	4	49.2	48.7	46.5
関数	3	57.4	48.8	48.2
データの活用	3	71.5	60.2	58.6

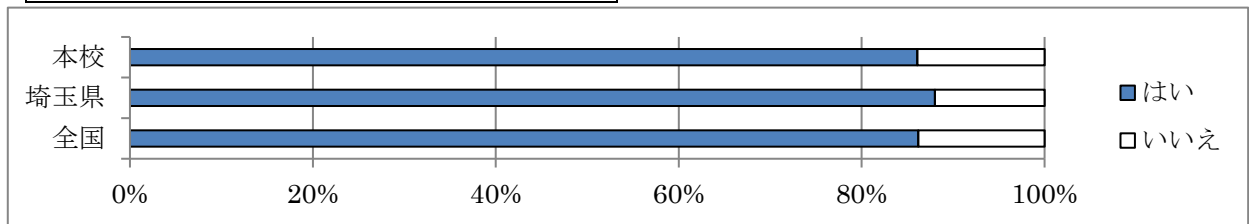
理科（公開されている問題のみについて）				
大問題	設問数	本校平均正答数	県平均正答数	全国平均正答数
【1】	6	3.1	2.9	2.9
【2】【9】	4		2.0	2.0
【5】【8】	4	2.3	1.9	1.9
【3】【6】	4		2.3	2.3
【4】【7】	4		2.3	2.3

<生徒への質問紙調査>（主なものをグラフで表示）

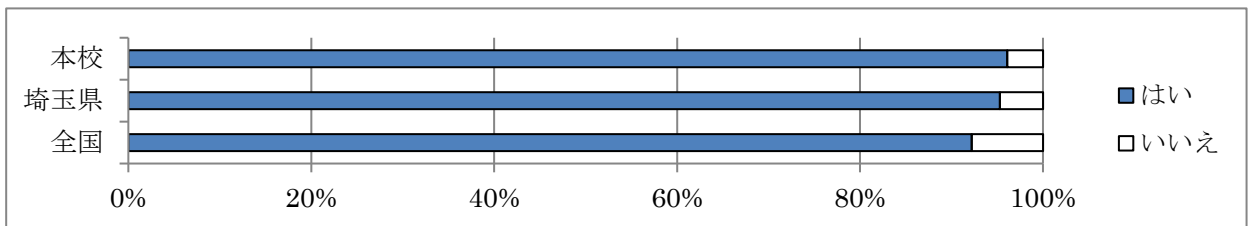
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

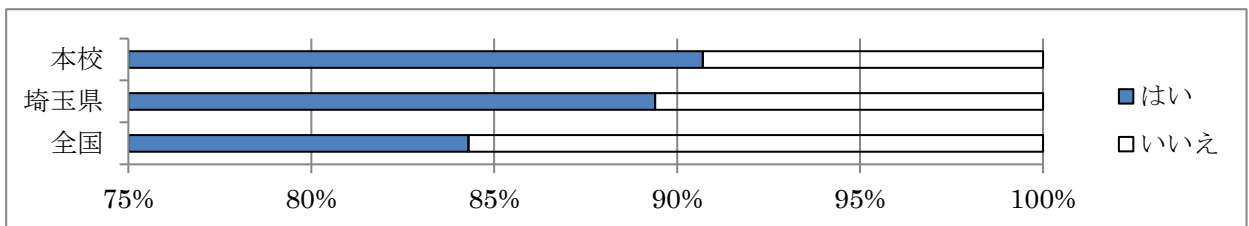
自分には良いところがあると思いますか。



先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。



あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【分析の概要】

全体 (56.0%) 及び「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の全領域で全国・県の平均を上回りました。特に、「書くこと」の領域では、平均を 10 ポイント近く上回るなど、良好な結果が得られています。一方で、「言葉の特徴や使い方に関する事項 (知識・技能)」については、全国平均を上回っているものの、埼玉県 (公立) の平均と同等の数値 (48.5%) に留まりました。

【問題】

物語の中で「木の実」に書かれている場面が、「二つの話」には書かれていないことによる効果について、自分の考えとそのように考えた理由を書く。(記述式)

本校正答率 16.9% 全国正答率 17.1%

【分析】

本問題の無解答率が 28.1% (全国平均 21.5%) と高いことから、記述量の多い問題や、複数の視点から理由を構成する問題に対して、最初から諦めてしまう生徒が一定数存在することが推察されます。読解の授業において、単に正解を探すだけでなく「なぜそう言えるのか」という根拠を、本文の構成 (対比や省略の効果など) に着目して説明させる活動を強化するとともに、無解答率を下げるため、部分点を狙った記述のポイント (キーワードの盛り込み方など) を指導し、白紙で出さない習慣を徹底させます。

<数 学>

【分析の概要】

すべての領域 (数と式、関数、図形、データの活用) で全国・県の平均とともに、上回りました。特に、数と式、関数、データの活用の領域では、平均点を 10 点近く上回っています。図形は、上回っているとはいえ、その差は僅かでした。

【問題】

$\triangle ABC$ において、 $\angle A$ の大きさが 50° のときの頂点Aにおける外角の大きさを求める。

本校正答率 53.1 全国正答率 58.1

【分析と今後の対応】

- ・外角という言葉の意味を理解しきれていない生徒が多いです。日頃の授業で、図形等の名称はについてよく確認を行います。
- ・図形の領域を苦手としている背景に、基本の性質や関係性を理解しきれていない生徒がいることを踏まえ、新規学習事項と既習事項の結びつきを意識した授業を行います。

<理 科>

【分析の概要】

全体的に全国及び県の平均を上回りました。特に、「粒子」や「生命」を柱とする領域の正答率が高く、学習した基礎知識を活用する力がある生徒が多いと考えられます。一方で、地層 1 から地層 4 までの性質から、水が染み出る場所を判断し、選択する問題の正答率が低いことから、行ったことのない実験について、情報をもとに推測して解答するような問題演習が少なかったと考えられます。

【問題】

地層1から地層4までの性質から、水が染み出る場所を判断し、その場所を選択する。

本校正答率 32.3% 全国正答率 36.2%

【分析】

水平に重なった地層1～地層4の性質が示されています。性質には、地層を構成する粒の大きさやすき間、水の通り抜けの有無が書かれています。中学校の理科では、この実験・観察を行わないので、情報をもとに結果を推測する力が必要になります。授業で、このような行ったことのない実験や観察において、得られた情報から結果を推測する問題を演習することや、授業での実験や観察において、結果を予想する活動を行うことで、正答率の上昇が期待できます。また、既知の学習事項を用いて、身近な現象についてしくみを考える活動を取り入れることも有効と考えられます。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：[埼玉県学力・学習状況調査](https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html) 埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年5月8日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語 教科の領域等	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	69.2	65.3	13	69.9	60.4	11	58.5	55.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	67.3	67.4	7	45.9	43.8	8	69.5	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	4	61.1	59.3	4	71.6	65.0	4	54.7	53.0
読むこと	8	55.5	56.8	7	55.0	48.5	8	57.5	54.7
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑

数学	第1学年			第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	10	60.5	58.2	11	60.9	56.3	11	70.8	60.0
図形	10	52.6	52.0	8	47.7	42.2	8	56.2	49.7
1年変化と関係2, 3年関数	8	49.5	49.4	7	61.4	54.0	8	59.1	52.8
データの活用	5	45.4	43.9	7	56.9	52.1	6	71.7	64.9
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑	↑↑↑

英語	第2学年			第3学年		
	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	77.5	73.6	10	54.8	55.8
読むこと	15	62.8	59.4	19	59.6	57.2
話すこと	2	26.6	18.5	2	14.6	12.5
書くこと	9	61.0	55.7	5	39.8	37.0
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上 (％)

内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 98.7	96.6 97.2	96.1 95.4
	② 授業の開始時刻	96.6 96.8	97.4 95.2	97.7 96.2
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.6 83.9	91.6 84.8	93.1 90.8
	④ 整理整頓	72.6 67.7	74.8 69.0	74.9 78.5
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んで挨拶や返事をする			
	⑤ あいさつ	88.1 78.7	88.1 77.9	87.5 87.7
	⑥ 返事	94.8 91.6	94.9 91.7	95.3 94.6
	4 ていねいな言葉づかいを身につける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.7 90.3	92.8 91.0	93.9 93.8
	⑧ やさしい言葉づかい	89.5 86.5	90.9 87.6	90.8 91.5
○約束やきまりを守ることができる	5 学習の決まりを守る			
	⑨ 学習準備	92.8 89.7	93.6 93.8	94.3 96.9
	⑩ 話を聞き発表する	83.4 74.2	83.3 72.4	85.4 79.2
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.0 91.6	93.1 91.7	94.8 92.3
	⑫ 掃除・美化活動	87.7 85.8	88.0 88.3	89.2 82.3

本校の学力向上の取組

授業における取組

☆…成果を上げたと考えられる取組

■…課題を解決するための取組

☆1 「桶川中授業スタイル」の徹底・「お・け・が・わ」の合い言葉

(1) お・大きな声で挨拶・返事・発言をしよう

開始の挨拶からきちんとしたコミュニケーションをとり、気持ちを授業に切り替え、授業内の返事や発言もしっかりとした受け応えにします。

(2) け・けじめをつけてチャイム前準備

授業開始前から準備をする習慣を身につけ、チャイムが鳴っている間には開始の挨拶ができるよう時間を意識します。

(3) が・学習習慣を身に付けよう

授業をきちんと受けるための予習や、確認の復習などを含め、計画的な家での学習習慣を確立するようにします。

(4) わ・分かち合い 教え合う学習

「主体的・対話的で深い学び」ができるように、様々な形態で意見交流する時間を確保し、互いの理解を深め、コミュニケーション能力を向上させます。

お大きな声で挨拶・返事・発言をしよう
けけじめをつけてチャイム前準備
が学習習慣を身につけよう
わ分かち合い 教え合う学習



■2 話し合い活動の積極的導入と活性化

各教科等で話し合い活動を積極的に導入しています。グループ活動、ペア学習など教科の特性を生かした様々な形態で意見交流を行っています。

(1) ペア・グループ活動での相互評価

(2) 自己表現力を高めるための発表練習

(3) 生徒間の教え合い学習

(4) 意図的な話し合い活動の場面設定

(5) ジグソー学習などの学習形態の工夫

(6) タブレットを活用した発表、意見共有

3 学習に対する態度の育成

(1) 学習内容と日常生活との関連をさせながら、身近な題材を取り上げて学習意欲を高める指導をしています。

(2) タブレットなどのICT機器を活用し、疑問や探究心を湧き立たせるような授業を展開しています。

(3) 教師による評価だけでなく、生徒自身による自己評価や、生徒同士による相互評価を行っています。

授業以外の取組

1 個に応じた指導の実施

定期テスト前に個別指導や質問の時間を設け、学習内容の補充を行っています。

2 家庭学習の習慣化

予習と復習は学習内容の理解を深めるため、自主学習ノート等を使いしっかりと取り組むよう指導しています。

3 シラバスを活用し、学習計画の確実な実践

見通しをもった学習内容を計画し、評価・指導しています。

研究主題 豊かに学び続ける生徒の育成

～学力向上のための指導方法の工夫～

授業での取組

① 桶川中授業スタイル

- お 大きな声で 挨拶・返事・発言をしよう
- け けじめをつけてチャイム前準備
- が 学習習慣を身につけよう
- わ 分かち合い 教え合う学習



② 見通しをもたせる

- 本時の課題の明示

③ ICT 活用

- 調べる
- まとめる
- 意見交換
- 分析
- 記録



④ 話し合い活動

- 授業時の班活動
- 学級会



⑤ まとめの工夫

- 時間の確保
- プリントやタブレット活用



⑥ TT 指導・個に応じた指導

- 数学、英語の TT 指導
- 定期テストに向けた質問日設定



学習のベースとなる計画や環境づくり

学習指導要領に沿った計画の作成

- ① 学習指導要領に対応した教育課程の編成・点検・改善
- ② 学習指導要領に対応した年間指導計画の作成・改善
- ③ 学習目標の明確化とシラバス作成・活用

家庭・地域社会との連携と工夫

- ① 学校運営協議会
- ② 環境ボランティア
- ③ 朝のあいさつ運動
- ④ HP・学校だより等での情報発信

保護者・地域の皆様へ

日頃より、本校の教育活動に御理解、御協力くださりありがとうございます。
桶川中学校は、それぞれの授業や学年の取組、委員会活動、生徒会活動など、学校生活をよりよいものにするための活動をしています。

学力向上への取組として、『主体的に学び続ける生徒の育成～生徒の可能性を引き出す「任せて、考えさせる」授業実践～』を研究主題に設定して取り組んでいます。変化の激しいこれからの社会において、一人一人が自ら考え、多様な人と関わり、いろいろな方法や手段を選択して解決できるようにすることが必要であると考えています。したがって、生徒が多様な人と関わり、学びの喜びや楽しさを味わいながら、自ら考え、学び続けることができるように、私たちは日々授業改善に努め、「わかる授業」「楽しい授業」を実践していきます。

そして今後も、教職員が一丸となって様々な課題を解決していくとともに、「地域に根差した信頼ある学校づくり」と「地域の誇りとなる桶中生の育成」を目指して努力してまいります。

